

第8回 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

令和6年(2024年)1月12日(金)13時30分～

日野町役場 防災センター研修室

~~~~~

### ○子ども支援課長

皆さん、こんにちは。第8回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、設置要綱に従いまして佐々木委員長から進行をよろしく願いいたします。

~~~~~

○委員長

今日の主題ですけれども、来月に最終の答申を町長にお出しするということで、最終報告書の原案をつくりました。とはいえ、まだ私も全部取り込めておらず、事務局に依頼しているところもまだまだ未掲載のところもあります。ぜひ今の点でお気づきの点がありましたら、どしどしご意見をお願いしたいと思います。皆さんのご意見をいただきながら、次回の懇話会では最終案を完成させなければいけませんので、今まで議論していた部分が抜けているとか、いろいろなご意見がありましたらお出しいただきたいと思います。

では、この最終書報告書(原案)をまとめていきたいと思います。まず、背景のところ、要は今までの経過とか活動内容等の部分は事務局をお願いして数値的なことが多いし、これまでどういうふうな経過でこのような内容になったのかを含め事務局から説明いただきます。

資料の「7. 子育て環境の未来に向けての提言」は私の担当になっておりますので、私から説明させていただきます。

さらにその後ろ、「8. 目指す姿」につきましては、日野町は将来的にどんなまちになっていくのか。子育て、将来像を考えていくときに、日野町に来る人がどういう生活を送るのかというイメージを共有するために、「子育てライフストーリー」をつくってみました。イラストも描かせていただいております。まず、背景の部分から紹介をお願いします。

○子ども支援課長

よろしく申し上げます。

お手元の資料「最終報告書(原案)」を見ていただきまして、こちらの方から説明させていただきます。

2ページに目次がございますが、全部で10章です。「1. はじめに」から始まって、第6次日野町総合計画に基づく子ども子育て施策の検討、国の動向、町の現状と課題、それを踏まえて「日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会」が発足して、住民との協議・対話の中から最終的に「7. 子育て環境の未来に向けての提言」ということになります。

それと「8. 目指す姿」ということで、1つのビジョンを持って進めていくという意味

で、「日野町子育てライフストーリー」ということで〇〇委員にまとめていただいた章立てになります。

最終、10番目はこれまでの検討結果の資料編ということになります。本日はまだ資料編は作成中でございますが今日は付けておりませんが、最終的にはここに付けていくということになります。

それでは、簡単に説明させていただきます。

「1. はじめに」のところに、町長から依頼を受けまして検討していくという過程をここに書かせていただきますが、本日はまだ原稿が間に合っていないところがございます。

「2. 第6次日野町総合計画に基づく子ども子育て施策」のところでは、最初に、未来を担うひとつづくりの政策の柱に、子育てを地域全体で支える気風があるということで、「対話で築く地域保育サービスのなかで、どの子ども健やかに育つことができるまち」というふうにうたっておりますので、まさしく今、懇話会の目指している、これまでやってきた姿、住民の方から意見をいただきながら進めてきたというところと合致しているというふうに考えております。

さまざま課題はあるのですが、【基本政策】の①から④ということで、①出産前から育児への切れ目のない支援の推進、②子どもが安心して生活できる仕組みづくり、③幼児教育・保育の充実、④子どもの発達段階等に応じた支援対策の充実というふうになっております。それに基づく検討ということになります。

4ページの「3. 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育・保育の方向性」では、(1) 国の動きということで、方向性をまずあげております。国の中央教育審議会(中教審)は、令和の日本型学校教育の構築を目指して、答申をまとめました。コロナに代表されるように先行き不透明な予測困難な時代の中で、どのように子どもの主体性を伸ばしていくかということが、国でも問題視されているところでもありますので、幼児教育というのは、生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期ということをしっかりと抑えた中でやっていくということになります。

(2) 時代の変化に対応した根本的な見直しということで、今後の幼児教育の取組みの方向性としては、幼児教育保育施設を中心として、家庭や地域社会が自らその教育力を再生・向上し、家庭・地域社会・幼保園の三者がそれぞれ教育機能を発揮して、子どもの健やかな成長を支えていくということで、今まで家庭教育に任せていた教育という部分が、時代の変化とともに地域や園が協力して子どもを支えていくということを国でもしっかり言われておりまして、時代の変化に対応した形で町として取組みをしていこうということになるかと思えます。連続した発達ということ踏まえた幼児教育の充実ということになります。

5ページの「4. 幼児教育・保育の質の向上」というところで、国の方針をもとにした日野町での取組みの指針ということになります。①から④にまとめているわけですが、①は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基本に、幼小の教職員の連携が促進されて

おります。日野町でも「学びに向かう力推進事業」で培った連携をさらに発展させ、ともに共有した中で育てていこうというふうな機運が日野町の中でも生まれていますので、そこは大事にしていきたいと思えます。

②では、特別な配慮を必要とする幼児への支援にも努めています。

③は多様性への対応ということで、外国人幼児やその保護者に対し、就園・園生活等が安心して送れる取組みの充実です。

④は、病児保育や医療的ケアの必要な子どもに対する支援は、なかなか日野町ではまだ十分できていない課題でございまして、看護師等の専門職の確保により安全対策を実施していく必要があるということでございます。

(2)では「人材の確保」が大きな課題でありまして、大きく5つありますが、②では離職防止・定着をはかるための様々な取組みということで、働く環境や人間関係の構築、またICT等を活用した事務負担軽減ということも推進していきたいと思えます。

④では研修の充実ということで、キャリアステージごとの研修機会の確保、そしてまた⑤では職員の専門性の向上、スキルアップのための研修会等の機会の確保も大事になってまいります。

6ページ、(3)家庭・地域における幼児教育・保育の支援ということで、家庭的な支援も必要になってくるケースが多くなってまいりまして、①で保護者等に対する学習機会・情報の提供、相談体制の整備も必要です。②では一時預かり事業等の充実ということで、これは国の誰でも通園制度の中でも言われているように、望めば誰でも預けられる、就園できるという体制整備もしていく必要があると考えております。

③では、公民館事業や様々な子育て団体との連携も、地域で子どもを育てる形も必要になってまいります。

(4)少子化対策につながる安心感がひろがる関係性の構築については、①地域全体で子どもを育む機運の醸成によって安心感が生まれ、「このまちに住み続けよう、帰ってこよう」と思える子どもたちを育てるところがポイントになってくるかなど。そうすると、④豊かな自然の中で地域のふれあいが生まれる環境ができてくるのではないかと考えます。

(5)幼児教育・保育を推進するための体制構築等、当町における幼児教育センター的な機能、またアドバイザー制度についても、大事な取組みということで、国も推進されていますので、日野町としても県の支援を受けながら進めていく必要があると思えます。

7ページの「5. 日野町の幼児教育・保育の現状と課題」というところで、少子化による出生数の減少、保育園への入園の増加、幼稚園への入園の減少、保育士の人材不足、施設の老朽化という、日野町の5つの大きな課題をあげております。

日野町の出生者数の推移については、日野町では目に見えて子どもの数が減ってきている状況があります。住民基本台帳の資料では、平成24年では190人の出生者数でしたが、昨年(令和4年)は117人、今年(令和5年)は11月末で92人となっております。

右肩下がりで減っている状況です。

次の8ページは保育士の採用者数の推移ということですが、まだ表が作成できておりません。採用はあっても、なかなか保育士が定着しないという現状です。

(2)は日野町の幼児教育・保育の変遷、日野町の過去の施設および取り組みの事業の経過ということで、園舎の建築やこども園の開設、預かり保育の開始、保育体制の拡大等、様々な対応をしてきているのですが、まだ追いついてないという状況がございます。

(3)は幼稚園・こども園・保育所の定員、在籍数及び施設の状況については、中間報告の数字で申し訳ございませんが、今後、最新のものにかえていきたいと思えます。幼稚園・こども園・保育所の定員に対する在籍者数です。待機児童についても数字を入れていきたいと考えております。

10ページですが、(4)幼稚園・保育所等の在籍者数および保育士数の変化ということで、平成22年から令和4年まで書いております。平成22年の保育所の在籍人員の合計は268人でしたが、令和4年では418人ということで、約1.5倍になっております。幼稚園の在籍人員は、平成22年が387人でしたが、令和4年は210人ということで、約50%減になっております。

保育士については、平成22年は121名、令和4年は188名で約1.5倍になっているのですが、これは正規職員だけではなくて会計年度任用職員・パートタイム・加配の職員も入れているということで、実際には1.5倍くらい増えていますけれども、足りない状況になっております。

11ページは、「6. 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会について」ということで、懇話会が発足したところを書いております。総合計画の中で「多様性」「持続可能」「共創」というところを、社会的な背景から検討していく必要があるという目標です。

(3)懇話会の目的ということで3つありまして、1つ目は子どもたちにとってより良い幼児教育保育環境の提供に関する事、2つ目は、より良い保育の質の向上をめざし、適正な集団規模に応じた保育の提供と保育人材の確保に関する事、3つ目には、将来に向け、地域の実情に応じた幼児教育保育施設の整備計画に関する事、以上を目的に掲げて協議を進めていくというところなんです。

(4)懇話会の委員体制について、(5)子どもを取り巻く環境をより良くするために大切にしたい方向性ということで図にしたものです。「子ども」を真ん中に、保育園・幼稚園・こども園での教育、地域での子育て、家庭での育てという三者の関係性を図式して、そのトライアングルをしっかりとしていこうというものでございます。

(6)懇話会の基本的な考え方、(7)懇話会の進め方、各層からの将来像収集ということで、今まで公民館ワークショップや子育て層の保護者からご意見を聞かせてもらっております。

(8)懇話会の開催経過と、視察をさせていただいて考え方が広がってきたわけで、その辺をもう少ししっかりと書いていきたいと思っております。以上です。

○委員長

ありがとうございます。ここまでは懇話会が始まる前までどういうことがあったのかという、前の話になります。ここから先が、懇話会で検討した結果どうなってきたかという話になります。

あと、出てきた用語で、「総合計画」については皆さんおわかりになりますか。日野町でいうと、一番基本にある計画が総合計画です。環境基本計画とかいろいろな計画が日野町にも存在していると思うのですが、そういう全部の計画の元になるものが「総合計画」と呼ばれているもので、総合計画の中にそれぞれのものが位置づけられて、全体のものが動いていくというのが基本的な位置づけです。補足させていただきました。

ここままで、ご質問等ございますか。大丈夫ですか。

あと、懇話会の説明をあえて入れてくださったのは、ちゃんと説明した方がいいだろうということで、細かく書いていただいているという感じです。普通でしたらさらっと、構成人数くらいで終わっていると思うのですが、そうではなくて、さらにそれがどういうふうな進め方をしているかということは特色があるので書いておこうというお話になっています。

それでは、私の担当に移らせていただきます。「7. 子育て環境の未来に向けての提言」です。

ここから、(1) から始まって、何度か見たような図が5ページの上まで続いていると思います。今のワークショップでもこのあたりの話をさせていただいて説明しているところで、重複するのですが、その部分について前の方で簡単に補足説明させていただきます。

もともと幼稚園・保育園の存続という将来を考えるとときには、子どもがいないと始まらない。通園する子どもがいなければ、どれだけ環境がよくても始まらないというところで、子どもたちが増えていくには、親の仕事先が近くにあることだというのは何度も出たと思います。

そこにさらに付け加える課題があって、やはり地域に子育てする園があってほしい、場所があってほしいという思いです。それから、そうはいつでもそもそも日野町で住める場所がすごく限定されている。転入して住もうと思っても、親の隣に家を建てようと思っても、建てられるところが限られている。やはり戻れる住環境が要るだろう。

3つ目、日野町の特徴は自然だとみんなおっしゃるけれど、保護者ワークショップなどを通じてわかったのは、昔と比べて日野町の中で自然と遊べる場所が、管理の手が入らなくなったりして減っている。でも、日野町の特徴である自然と触れ合えるようなことをしたいというご意見が、保育者からも出ていましたし、保護者からも出ていました。それは大事な要素だと思います。

それと、先ほど説明してくださったように、保育ニーズの変化、園舎の耐用年数の問題、保育士の確保もそうですし、それぞれ先生方がこんな保育をしたいと思ってもなかなか

実現できない状況があるというのが、まず全体の課題として何度も説明してきましたし、それはここにも書いてあります。

じゃあ、どうするのか。まず、転入できる場所をきちんと設けないと、幼稚園・保育園をつくったところで、少子化でどんどん子どもがいなくなってしまうから、園の存続にもかかわります。やはり、転入できるということは大事です。

それから地域での受け入れということを見ると、子ども園、ある程度まとめて想定してしまうと、ないところがどうしても発生してしまう。長野県に行ったり、青森県に行ったりしてわかったことは、地域がやるという話になれば、小規模預かり保育施設等を行うことはできるのではないかと、そういった選択肢を残しましょうと。自然を活かせるというのは、子ども園をつくるときにそういった要望をちゃんと入れていく。

保育士の数が足りてないということの根源は、要は、先生方をどう後ろ支えするかということも大きな要素としてあるかと思います。副委員長からご紹介いただいた幼児教育アドバイザー、県の方でも検討されているようですけれども、そういったものを入れたりとか、あと、奈義町などにあるように、いろいろな教育施設がまとまってワンストップでいろいろなことが相談できる場所、そういったことを実現しないといけないということが、この課題に対しての対応として考えました。

それを図にまとめ直したのが、5ページの下の図になります。

まず、子ども園へ通える場所に、例えば出雲崎であった例でいうと、すぐ近くに子育て層が低廉な家賃で入れる賃貸施設がありました。それから、転入可能な場所（ニュータウンや分譲地など）がある。もちろん既存の集落にも家が建てられるようにしないと、親御さんの近くに住みたい方もいらっしゃると思うので、そういった方が通園できる。できれば、園の近くにそういったものがまとまっていると、園を続けるときに、子育て層向き賃貸等、ここは常に子育て層がいるので、常に子どもがいるということになります。こういったことを考えていくというのが1つです。

それから、地域で運営する小規模預かり施設等、集落に園があるのだから絶対そこに通うべきだという話ではなくて、こども園でも小規模施設でもどちらでも選べること。私も集団苦手派だったので、小規模の園に通える選択肢があるということはすごく大事なことでと思います。

あと、先生方を後ろ支えする、園をさらにうまく連携していく 出雲崎町は「子育て支援センター」と「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」の3つが1か所にありました。そして幼児教育アドバイザーが巡回して、先生方の困りごとやアドバイスをします。あと、小学校との連携、こういったことを実現するような形にしていった方がいいのではないかとということで、まず図を描きました。

6ページからその詳細な話を書いています。

まず、「①子育てしようとする人が住みたくなる住環境」です。日野町で生まれ育った人が帰ってくるということももちろんですし、日野町にたまたま来られた方や目指して

来られた方が住める場所を広げていこうという話を書いています。

「移住推進施策」は先進施策もたくさんあるのですけれども、まだそれをまとめきれていないので、加筆する予定をしています。

次に園の部分です。「②長時間保育ニーズ、保育者の目指す保育の実現、保育士不足、園舎の耐用年数の超過への対応」ということで、特に皆さんに見ていただきたいのはこなんですけれども、子ども園はどういうところに立地するべきなんだろうということ、6ページから7ページにかけて書いています。今までの議論を踏まえて書いただけなので、もっと書き足してほしいとか、書きぶりがよくないというご意見があるかも知れないので、ぜひ突っ込んでいただきたいと思います。

私が項目としてあげたのは、「周辺に子育て層の転入が可能なこと」、「日野町の自然を生かした教育保育が可能なこと」、「地域が園を受け入れ可能であること（子どもの声が騒音扱いされない等）」、私は日野町ではないのかなと思っていたのですけれども、子どもの声に対する騒音のクレームが入っているエリアがありました。ですから、都会ではこの話はよく問題になってしまっているのですけれども、日野町でもこれを地域に確認して進めていかないと、せっかく園ができたのに外に出て声をあげるなというようなことになってしまったら元も子もないので、これはちゃんとチェックすべきだと思います。

それから、「地域が協力可能であること」、「受け入れ可能」と「協力可能」を分けて書いたのは、保育士の先生から言われた言葉ですごく印象に残ることがあって、その方はほかのエリアでも保育士をされたことがある方ですけれども、日野町に来て保育をしていますごくいいと思うのは、地域の人がみんなあいさつしてくれると。その方が街の方で保育士をしていた時には全然そんなことはなかったと。ですから、皆さんに見守られている感じがしてすごくいいとおっしゃっていたのです。「自然」というのは極論すれば園の中にもつくれるものもあるけれど、「地域との交流」というのは、園の中につくれないと副委員長もおっしゃっていて、そういう意味でも地域の方と接点をいかに育んでいくか。そういったことに協力していただけるのかということは何となくすごく大事だと私は思ったので、ここに項目として「受け入れ」と「協力可能」は別立てて書きました。

次に「保育者にとっても地域との協働があり目指す保育ができ、働きやすい建物・環境であること」、これは本当に働いている先生方がそう思っていただけるようなものにならないといけないだろうと思いました。

最後の2つ、「土砂災害、水害の想定エリアで無いこと」と「通園、通勤に際し道路交通が極端に危険で無いこと」は、どちらかというチェック項目みたいなものだと思うのですけれども、今も災害が起こったばかりですが、ある程度ハザードマップで、どういったところでどういったことが起きるのかということは想定されていますので、できればそういうところを避けたいし、道路交通もある種のハザードなので、できればそういうところを避けるということを書きました。

ただ、全部満たせるような理想の立地があったらいいのですけれども、そうとは限らない

ので、1つ注意書きで書いたのは、満たせない項目については代替策を講じることとします。例えば園と地域が協力する体制が開園前に無かったとするのであれば、園をつくるのに地域と交流をしなければいけないと思いますので、そこで協力できる組織を立ち上げるとか、何か代替策をちゃんとつくっていきましょうということを書きました。

2) こども園の数、3) 地域で運営する小規模預かり園等ということで、これも表にまとめたのは、事務局で主に想定されているのは、「認可保育園」と「小規模保育事業」だと思います。A型・B型・C型とあるのですが、これは補助金が付くので、そのかわり、基本的に5歳児以下を対象とした施設ということになります。

十和田湖では「認可外保育園」でしたので、町が何か補助金を創設しない限り既存の補助金はないという形になるので、このあたり地域の選択と町ができることがどの辺にあるのか模索しないといけないのですが、何か地域でやれること、子どもを預かれる場所が実現すれば選択肢を残したいなと感じました。

「3) 支援体制」については、保育士の先生方に聞いていてつくづく思うのは、子どもの課題が増える、そうすると家庭への支援が増える、それが全部園に来てしまって、皆さんアップアップされているというところがあるので、そういったところをどう後ろ支えするか。1つは子育て支援センターみたいな、ちゃんと拠点をつくるということと、先生から伺ったお話でいうと、幼児教育アドバイザーを設置することが柱なのかなと思うのですが、私はこの専門家ではないので、書きぶりが足りてないと思います。

もう1つ、「医療的ケアを必要とする子など障がい児への支援」については、先ほど課長が説明されたところにも表記がありましたけど、具体的にどう書くのか私もまだ詰め切れてないので、また皆さんからアドバイスいただきたいと思うところです。

私の今書いているところに関しては、以上です。私自身が9歳から19歳まで自律神経失調症で学校へ行けなかった人間なので、そういう点も含めて何かもう少し書き足したいと思っているのですが、そこまで書けてないというのが正直なところです。ここまでで質問はございますか。

○委員

「小規模預かり園」で、「地域」という限定になっているのですけれども、「民間」という言葉は出てこないのですか。

○委員長

地域の意思で立ち上げるという意味で、その結果の運営形態は民間だと思っています。

○委員

具体的に肯定した場合、既存の保育所を運営されているような社会福祉法人なり、そういうところが進出される可能性もあるのですが、あくまでも地域運営という、候補としてはいくつかあると思うのですが、すべてがそういう地域運営になるのかなということですか。

○委員長

例えば、地域が立ち上がってそういう法人を招いて合流するというやり方もあると思うのですが、私は、地域の意思でやると決めるかどうかだと思っているのです。要は、町がうまくやっという話ではないはずなので、地域が何を選択するかというところがものすごく大事だと思っています。力点がそこにあるというだけで、民間法人が来ることを拒むという意味ではないです。誰がそれを決心してやるのかというところがものすごく大事だということなので、そこを読めるようにもう少し書き足します。ありがとうございます。一旦、次の説明に移らせていただきます。では、「8. 目指す姿」ということで、お願いします。

○委員

自由に書いています。この2年、懇話会で地域ワークショップに伺わせてもらって、実際に園で親御さんに話を聞いたり、公民館でいろいろな世代の方にお話を聞く中で、まずそのリアルな声が1つです。

あと、私が仕事として、事業として子育て支援をやっていって、日々、親子さんに出会って、親の声を聞いてきているという経験をあわせまして、追加で言うと私自身3人の子どもを育てているというところを踏まえて、今回この日野町という、やはり皆さん、自然が豊かだということのを口々に言われるこの環境を踏まえて書かせてもらいました。

これは読み上げてどうかというより、皆さんに読んでいただいて、感想を聞かせていただけたらと思うのですが、大事にしたところは、家庭ごとに子育てをどんなふうにしたかということがいろいろあると思うのです。それを選べるということを大事にしていきたいなと思って書いています。自分たちがどうやって子育てしていくかという選択肢が、例えばその家庭の収入の状況、お金があるからこのサービスを選べるかではなくて、どんな家庭でも自分たちがやっていきたいという子育ての選択ができるように、行政や市民団体の協力でその選択肢を支える、守っていくということを、ぜひ日野町にしたいなという期待がいっぱいもっています。

使っている言葉は私が使っている言葉で、一般的ではない言葉も入っているかも知れませんが、大事にしているのはそういう点です。子育てしている家族が選べるというところを、それを思いながら書いているので、その目で見たいと思っています。

最後、子どもが生まれる前の結婚しようかな、というところをスタートに、その時生まれた子どもが大きくなって中高生になるくらいまでを書いていきます。最後の方は、もう少し書き加える必要があるかなと感じています。その子たちがまた戻ってきて、日野で暮らしていきたいと思えるまでが1つのライフストーリーかなと思っていますので、最後までもう少し書き足したいなと思っています。

今読んでというボリュームではないと思うので、また公式ラインなど登録いただければ、そちらを通じて感想など聞けるとありがたいと思います。以上です。

○委員長

なぜこのストーリーをつくったのかというと、どうしても、個別具体的な話ばかりが並んでいくということがあるので、我々がこういったことを通じて最終的に何を目指しているのかということ町民と共有したいのです。こういうふうになるために、例えば今回施策の提言もしますけれども、やってみたら、この将来像に向けてもっとこんなことをしたらいいのではということ振り返るときに、何を理想像にしているのかということは何ものすごく大事だと思うのです。計画用語でいうと、ビジョンとか理想像とか言われる範囲だと思うのですけれども、それを共有したくてこの部分をつくりました。

それでは、ここについて、まずご質問はございますか。

このあと質問コーナーが終わりますと、また各委員お一人おひとりに、現時点でお気づきのところを聞いていきたいと思っております。

○副委員長

まだうまく整理はできていないのですけれども、原点に戻って現時点で2年、一応の締めということで、今は私立園の園長ですけれども、もともと甲良町という小さなまちで園長を務めて、最後の2年間、子育て支援センターで町の保育に携わっていたことを思い出しました。

私はその当時、甲良町で1人の役員として関わっていたときには、具体的に何をやっていこうかということあげていきました。動かないと結局は理想像で終わってしまうので、視点を考えたときに、園の保育士さんが頑張らないといけないという、保育者側が元気になって保育をしていく部分と、もう1つはそれを利用される保護者さんと子どもたちの視点、2つの視点で考えていかないといけないと思っています。

私は今、どちらかと言ったら保育者さん側のアドバイザーの仕事をしているのですけれども、それは置いておいて、ここで考えるとしたら、少子化でどんどん人口が減ってくるのはよくないことで、日野町は衰退してしまうから、日野町が最終的には人が集って住みよいまちであるというふうになっていくためには、人を育てていかないといけない。その人たちは今のお父さんやお母さんたちで、その方たちが日野で子育てがしたい、してよかったと思えるものは何ができるかと思ったときに、私が甲良町で何をしたかと思いついたときに、アプリを導入したのです。もうつくっておかれるのかも知れないですけども0歳から18歳までの日野町の子どもたちが育っていく中で、この時期にこんな困ったことがあったときに、こんな機関でこんなことが利用できるよとか、こういう相談機関があるよとか、こういう補助金があるんだよという、日野の子育て中の保護者さんが見て一目でわかる冊子をつくったのです。子育てガイドマップみたいなものをつくって、それは年々更新していかないといけないのですが、ベースとなるものをつくるということをやりました。保健師さんにかかわってもらって、妊婦さんのときから18歳の成人までの案内、小さい子のことだけではなくて学校のことも含めて、成人までに子どもたちのことで親さんが突き当たるであろう問題や悩みについて書いています。と同時に、子ども

はこうやって巣立っていくんだよという発達の姿を付けてもらったのです。だから、目の前のことで悩んでいても、この時期はこういう時期なんだよということをガイドマップを見ることでちょっと安心できる。それでもわからなかったら保健師さんに聞いたらいいんだと、民生委員さんがいるよとか、そういう情報マップをつくったなということを出しました。それを今すぐしないといけないということではなくて、そんなやり方もあるのだと思っていただけたらいいかなと思います。

それから、園の現場のことで言えば、アドバイザーと子育て相談員は全く別の職種です。アドバイザーは、園の先生たちが園で朝おはようと迎えて、さようならと夕方帰らせるまでのその時間、誰が頑張らないといけないかと言ったら保育士さんで、その保育士さんが最善の保育ができるためにどうしたらいいかということを支えるのがアドバイザーです。子育て相談員は、うちは看護師がいるのですが、お母さんたちは、病気のことは担任ではなくて看護師に直接聞けるとか、いろんな人がいろんな分野で聞ける人がいるということは子育て支援の話だと思います。

あと、いろいろなおうちもあったりするけど、そういうネットワークをつくるのが子育て支援で、何もかも一人でするのではなくて、そういうシステムを日野町でも令和6年度から進めていこうという計画をされていかれたら、動くのと違うかなと思わせてもらいました。感想です。

○委員長

ありがとうございます。甲良町でつくられたものを取り寄せられますか。

○副委員長

7年か8年前につくったので、どうかな。今はアプリも違う業者にかえておられるのでどうかなと思いますが、1回事務局で聞いてみてもらえますか。

○委員長

では、せっかく副委員長がつくられたものなので、取れたらまた情報を委員に渡していただけますでしょうか。よろしくお願いします。良い情報は少しでも知りたいので。

いずれにしても、そういうパンフレットの先駆けみたいなものは、まずは我々がつくるものに関してもやらないといけないと思っているので、それは事務局とも相談して。

○副委員長

母子手帳と共に渡しておられるかと思います。だから、子どもができた時点から安心して子育てできるように。今やっているのは、オムツを配られるときとか、オムツを配ったときに、オムツをもらうだけではなくて、そこでしゃべれるのです。今やっておられるかどうかはわかりませんが、私が担当しているときはそんな感じでした。

○委員長

そうそう、それを、つまり読みやすくしないと。

○委員

一応、産んだ時かな、これはもらいました。

○副委員長

わかりやすくいいので、そういう大きい版とカバンに入るサイズ、いつでも見られるように。

○委員

お母さんは絶対知っている。

○委員

知ってるけど、見てないかも。

○副委員長

ミニサイズで、バッグに入るといふものを考えて、冊子になっているものと、もう1つ、1枚もので書かれているものをつくったのです。冊子は読まないといけない。

○委員

1枚ものの分はありましたよね。でも、書類が毎回多すぎるのですよ。書類が多いから、捨ててしまう。学校の入学案内などでも言えるのだけど、とにかく情報量が多すぎて、文言を統一してほしいなと思うことがあります。役場や学校にデザイナーを入れてくれと言ったこともあります。

○副委員長

アプリになると、自分が見たいところだけ引けるから、スマホはすごく楽なんですけど、それを入れようと思うとすごく

○委員

保育園のときはそんなに思わなかったのですが・・・小学校は情報量が多すぎて、統一感がなく、意味が分からないときも多いです。子どももそうですが、親も文字だけで理解できず、視覚的にしか分からない人もいるのではないのでしょうか。視覚的に分かりやすいガイドブックは必要です。

○副委員長

甲良町はプロに頼んでいました。

○委員

弱視の人でも見やすいようなものは必要だと思います。

○委員長

色盲もありますよね。

○委員

あえて言っていないだけで、実は特定の色が見えないという人は実際おられるので。

○委員長

私もあえて言っていないですけど、左目は弱視なので。

○副委員長

特にため込んでしまったら見ないから、とりあえず携帯で来て、いつでも困ったときに見られるものが必要ではないかなと思います。

○委員長

ありがとうございます。何か変わったということを見せるためには、すごく着手しやすいところだと思うので、きちんと中に書きます。

○大塚委員

読んだり聞かせていただいて、問題点がすごくたくさん書いてあって、それをクリアしていくのがベストだと思うのですが、たぶん今年とか来年とかでは無理な話ばかりなので、長期的に考えてやっていくしかないのかなと思いました。

まず、すべてにおいてというぐらいに課題なのがお金の問題だなと感じました。人を雇うにしろ、場所を確保するにしろ、お金が必要だと思います。私たちもそうなんですけれども、知らない補助金がたくさんあると思うのです。私は知らなかったのですが、ランドセルを買ったら補助金をもらえるところがあったり、細かいところの補助金があると思うので、町も、県や国からももらえるものはもらえるようにしていったらいいのではないかなと思いました。

私は企業に勤めているので、計画 (plan)、実行 (do)、評価 (check)、改善 (act)、PDCAでやっていけばいいかなと感じました。以上です。

○委員長

まずアクション、何かやらないと変わったとは見えないし、絵に描いた餅になってしまうので、PDCAという基本的なスタイルと、あわせて何かやるという意識を大事にしたいと思います。

○委員

何をするのかということは、町が施策として打ち出していく、それはお金の部分でも国の補助金も含めてどれだけ町が力を入れるというか、特色を出すのかということころは、ある意味お金が関わってくると思います。何かを建てようと思ったらお金がかかりますし、まちづくりをするうえではいろいろな要望がある中で、子どもの施設、それから保育者の方にプラスになるような施設を日野町はつくるというか、施策として構築するのだということころは、今の町長もそういった考えを持たれていると思いますし、先ほどいわれたみたいにガイドマップの話も、出雲崎町のパンフレット、ああいったものはそんなに何千万円もかかるようなものではないので、一番始めやすいところかな。それを見やすく整備して提供する。それを見てくれる人を1人でも多く増やすというのは、懇話会としても1つのアイデアとして出せると思いますので、そこはプロに任せたらいいと思います。

アプリの話も出ましたが、大きな市になると享受する人が平等にアプリを開発するお金、享受する人が少ないと、アプリは誰でも見られるのですけれども、結局、逆算していくとコストが合わなくなるので、そこは日野町なりに、まずは紙ベースで、実際に何人の人が読んでくれているのかなということころはあるので、その辺はすぐしていけることと、あとは日野町特有の、小学校・公民館区で今までやってきた歴史があって、そこに幼稚園があって、それが子ども園に変わってきて対応を始めたということころですけれども、これ

から子どもさんを預けられる保護者のニーズを考えると、ある程度、地域性というのは民間の小規模預かり園等で満たすという案は合っているというか、やはりどんな地域性とかいろいろ言ってみても、入られる方のニーズに合っていなければ、それは押し付けかなと思うので、そこである意味、日野町というのは今までやってきた歴史を変えないと、地域の理解が得られるというのは、地域が変わろうという思いだと思うので、そこは、保育園単体というより、小学校との接続の話が出てきているので、小学校も今それぞれの保護者の方や生徒の状況が結構差があると思いますので、日野町として全体を見ていって、保育の場所をどう提供するのかというところは、具体的に大きく転換のときかなというのは、一保護者としても感じています。

あとは、保育者の方の、人手不足というのはどの分野も圧倒的に避けることはできないので、デジタル、ICTを含めて人間ができないことはAIも含めてやっていただく。その分、人間にしかできないようなところを保育士の方に、研修とか、自分のやりがい求めて学んでいただけるような場所が、センターとかアドバイザーの方の意味かなと思うので、そこら辺は先進事例が国内にあると思うのですが、同じことをしていてもだめなので、日野町版をどれだけこの答申に入れるか。

一番最初のときにも私は話をしていたのですけれども、地域と危機感をどれだけ共有するかということが、私たちができることかなと思いますので、その危機感の共有のさせ方というのは、視覚的にも何かしていけることがあるのかなと思います。まともりませんけど、転換の時期が日野町に来たのかなという感じはしています。

○委員長

ありがとうございます。実は後で提案しようと思っていたのですが、前にシンポジウムをしませんかと言っていました。答申を出したあとに、私たちから「こういうものをつくりました」という話をした方がいいのではないかと私は思っていて、皆さんに賛同いただけるのであれば、「話を聞いてこういうふうにとまとめて、今回こういう答申を出しました」みたいな会をやりたいなと私は思っておりますが、またあとで聞かせてください。後ほど聞きます。今はまず、最初に話で。

○委員

お話を聞かせていただいて、今、私は保育所現場にいるのですけれども、現場の方ではずいぶん長い間、人手不足という課題が大変大きなものになっていまして、それを何とか、子どもたちの育ちの姿とともに役割を感じて、一緒に喜び合っていけるように共有していきながら頑張ってきたところですが、社会の流れとともに長時間の保育を求められる方も、それが当たり前になってきておりますし、おじいちゃんやおばあちゃんもお元気で年を重ねておられます。その子どもさんが子育てについて保育園やこども園、また預かり保育の方で担っていくということが必要な時代になってきているなということを感じております。

そんな中で個別にかかわることが必要な子どもさんもずいぶん増えてきているという

ことで、人がとにかくたくさん必要な状況になっているということは現状です。なかなか新しく人を増やしていくということが難しいということもありますので、それはそれぞれの施設の中で保育に携わりながら、やりがいを持って保育に当たれるようにということで工夫を重ねているところですが、現状としては目の前の課題に追われているという状況であって、先ほどから出ているような幼児教育アドバイザーとか子育て支援員さん、また家庭支援が必要な部分については、そのような役割を担っていただくようなところで、役割分担ができるような体制づくりということが非常に大事になってくるのかなと感じています。

私、いろいろな園に勤めさせていただいて、それぞれの園でそれぞれの特徴があって、地域の中で保育を進めさせていただけるということはとても素晴らしいことだと感じさせてもらっていて、それぞれの地域で、自然環境についてもとてもよいところがあるなどということもわかりながらではありますけれども、このままの状況が続くと、それぞれの園での運営も厳しい状況になってきて、日野町の幼児教育自体が本当に衰退していくということをととても私は心配しております。そういう部分で、ある一定の体制づくりということが、子どもたちの育ちにとってもですし、保育者の資質向上と全体そのあたりのことが必要になってきているのではないかと感じているところです。

先ほども出ていたお金の関係もありますけれども、国の補助金を受けようと思うと、なかなか、公立で運営をしていくとなるとそのあたりについての補助金も受けられないこともありますし、その辺りで民間運営については、もちろん町の施設と私立の施設の研修とか共有というのがとても大事になってくると思うのですが、そのあたりで民間であれば補助金を受けながらの運営も可能になりますので、そのあたり連携を取りながら進めていけたらいいなと感じます。以上です。

○委員

行政の中の人間ですので、なかなか意見の部分では難しい部分があるのですが、今年度4月からこの会に寄せていただいて、ご意見を聞かせていただいた部分も含めて思ったことを述べさせていただきたいと思います。

地域に入らせていただいて聞かせていただいた住民の方の声の中では、就学前の子どもさんの保育教育という部分については、学齢期の子どもさんの部分とは若干違うなということをまず第一に思いました。学齢期の子どもさんになると地域性、地域を大事にするということはあったかなと思うのですが、就学前の子どもさんの保護者の方々、また地域の方にとっても、そこまでこだわりはないのかなと感じます。

そういう中で今年度のワークショップに入ったとき、ほとんどの会を見せていただいて、今回の提言はそのワークショップで委員長が中心となってこの懇話会が提言されたストーリーというか、流れがそのまま踏襲されて、そのまま今回の提言にさせていただいているので、だいたいその趣旨・思いも理解しましたし、住民の方々も一定その理解をいただいている部分かなという部分を感じたので、その内容で進むのがいいのかなと思います。

ました。

ただ、2点あって、1つは、まとめていくという部分はわかるのですが、「地域が運営する」という部分での「地域」ということに対して、すごくボヤっとした感じ、先ほど「民間」という話もありましたけれども、具体的に誰なのかということは、この提言を見られた住民の方、ワークショップの中でも多数意見があつて、誰がするのかわからないみたいなどころがあつたので、その辺がもう少し具体的に出せるのかどうかというところを少し思いました。

純粹に地域でという形、地域住民の方の組織というのは、私も地域の公民館活動に携わったこともあるので思うのですが、ここ20年、30年前くらいと比べると格段に落ちているというのが実感としてあるので、そこをお願いするということは、本当に可能かどうかというのはすごく不安です。ですから、その辺のことをもう少し表に出す部分が必要かなということが1つです。

もう1つは、今も意見としてあつたのですが、大規模保育園の子ども園という話は公立を中心に想定されているので、本当に今の町の財政的なことを考えたときに、公立でいいのかなということは私も感じています。今後の国の流れの中で言うところの公立と私立、社会福祉法人を含めて、そこがやる場合との差というのを今後見ていくことも必要だと思います。

○委員長

ありがとうございます。1点目については、具体的な事例を見てきておりますし、飯田市はともかく十和田市の事例は本当に小さい町内会だったので、そのあたりもちゃんと見えるように加筆させていただきたいと思います。

○委員

幼稚園・保育園などの保育料無償化になるという時点で、結構、想定できたのかなという保育士の不足や保育ニーズの増え方、長時間保育が増えたとか、そういうことがすごく、もっと先手を打ってやっていかないといけなかったけど、今でもまだもっとやれる、もっと早くしたいのに、すごく急いでない感じが、保育園を増やしていくと、子ども園化とかいろいろ書いてあるのですが、また保育士が不足するのは目に見えているし、ニーズの変化もまた始まる、それはタイトルとして書いてあるのですが、そこを実際、どういうふうな保育士不足を解消していくかというのがなかなか伝わってなくて、私だけなのかな、どうなのかな、すごく足りていないことがすごく大問題です。

子どものことを考えるにあたって、保育士の不足というのはあつてはならない。今、保育士不足になっている時点で、子どもの保育をするときに最善の保育ができない状態で子どもを預かっている。待機児童をつくらないようにどんどん受け入れるのですが、さらに質のいい保育ができなくなっている。どんどん悪循環というか、最低限止めたけれど、それもできてない。どんどん悪化している気がするので、早急に、お金の面もあると思うのですが、来年度、長期というよりは早急に取り組んでいかないと

ころの優先順位として、もう少し、耐久年数が来ているので園舎も大事ですけども、保育士に対して、今おられる保育士のやりがいを上げていくというのももちろん大事ですけども、そもそも今おられる保育士の方がつらい思いをされているとか、頑張らないといけない状況になっているのは、保育士が足りてないからなので、とにかく増やすことをもっと考えないといけないのかなど。保育士不足について、もう少し大きく取り上げてほしいなと感じました。

○委員長

ありがとうございます。私がそこを書くときに悩んだのが、人さえ充てたら大丈夫だろうと思ってほしくないというところがあったのです。そもそも、人数だけ見たら増えていて、それでもなぜ問題が続いているかといったら、それ以上に課題が増える方が早いということですね。

○委員

コロナもあったし、余計にやらないといけないことが増えているし、障がい者の方もどんどん増えている、外国の方もどんどん増えている。いっぱいあって、課題の加速が早いということもあるので、それに追いつくというよりは、先手を打っていかないといけないくらい、保育士不足は起こったらだめな状況なので、子どもを預かるという前提で、起こっている時点で早急に取り掛からないといけないけれども、そこがなかなか見えてこない。取り掛かり方、どうしよう、どうしようと言っているだけに今なってしまうのかなと思います。

○委員長

「保育士不足」も、ちゃんと節を設けます。それだけが一人歩きするのも怖かったので、あえてそうしなかったのですが、しっかり書いた方がわかりやすいのであれば、それで一度書いてみて、また皆さんが突っ込んでいただいた方がいいかと思います。ありがとうございます。

○委員

子どもが減っていくのはどうしようもない事実なので、今、フルで頑張ってくれている保育士さんのサポート、ケア、お金の面に関して一番にやってほしいです。保育士さんがいないと私たちは預けられませんが、正直、保育士さんや保育園がなかったら私はこの場にはいないだろうと、生きるか死ぬかというぐらい、大きな問題だと思っています。

先ほども出ていたのですが、これを読んでいて、確かに「民間小規模預かり園で補強する」と書いてあるところが具体的に乏しいので不安です。自分たち保護者の立場としても、小規模施設は必要だと思います。もし、このプランのようにこども園2つに絞られてしまうと、ものすごく大きな保育園が2つできることになるので、そんな大人数の場所には行けないと思う保護者も子どもも日野町には多いのではないかと思っていて、今後、少子化が進むことによってどうなるか分かりませんが、今の時点ではそういう風を感じる場面が多いので、そうすると小規模預かり園は誰がやるのか、ということになります。

今わたしが住んでいるのは必佐地区になりますが、私の字は子どもが少なく、今8人しかおらず、10年後には小学生がゼロになるという状況です。そういう意味では、もともと地域の連携が強く、子どもが多い地区が手を挙げることになるのかなと考え、湖南サンライズとか、もともと地域連携が強い鎌掛とかはどうか？とか、妄想したりしますが、現実にはちょっと難しいかなと思います。

去年、日野町にフリースクールが立ち上がりましたが、あれは本当にフルパワーを使って、当事者である保護者が作ったものですが、そんな風にフルパワーを使える保護者というのは今の時代にはなかなか・・自分の子どもも含めて、他人のために動ける人間はなかなかいないと思われま。無理が生じてくるのが現実的です。

あとは「土砂災害・水害の想定エリアではないところ」という部分ですが、地域の人に理解してもらおうという意味では、これをもうちょっと出しても良いのではないのでしょうか。先日、能登地震がありました。今回の地震は1階が大きく潰れてしまった建物が多く、日野町の保育園はほぼ平屋が多いと思いますが、耐久年数が過ぎていることも考えると、地震が起こったときに潰れてしまう可能性が無いとは言い切れないので、地域の人に理解をってもらう、危機感を持ってもらうという意味では、建て替えないといけない理由の1つとしてあげられるのではないかなと思います。

また、災害があったとき、保育士さんが100人近い子どもたちを守ることになります。能登地震は1月1日でしたが、平日だとあの時間帯は保育園に行っている時間になります。もしあれが平日の昼間だったらもっと被害が多かったかもしれません。日野町も、県外の災害だからという見方ではなく、自分のところで起こった場合のことも深く考えた方がいいと思いました。特に原発もありますので、もしなにかあった場合は滋賀県は危険エリア内に入ってくるということもあります。

あと、13 ページに「各層からの将来像収集」とありますが「若者層は日時未定であるが」と書いてありますが、これは実施されたのか、もしまだだったら文言を入れなくてもいいと思いました。

○委員長

実は私、本業の1つが「自治会に対する防災企画の立案」でございまして、保育園に対しても防災のアドバイスをしたりしております。ただ、あまりそちらに走ってしまうと違う方向に行くかなと思って、あまり書かなかったのですけど。

○委員

保護者や地域に危機感を持ってもらうのだったら、それはもう今の段階では1番に上げてもいいくらい・・いや、やはり2番目かな。1番目は保育士の待遇改善、2番目に災害対策。わらべ園は木造で25年たっていますし、第二わらべ園はまだ大丈夫かもしれませんが平屋とはいえ災害時はどうなるか分かりません。保育園は地域の災害支援の場になることもあります。

○委員長

まず、検討したときに何が問題だと思ったかというところ、子どもを預かっていたとして、親がいつ迎えに来られるのだろうかということがすごく頭が痛くて、そこまでどうもたせるのかというところ。シミュレーションしていくと結構課題があることは自分の仕事の中でも見えていて。

○委員

東日本大震災のときもすごく有名な話ですが、子ども全員を津波から守ったという保育園もありましたね。4日目か3日目に全員を保護者に返すことができたという。日野町は、津波こそありませんが、水災害はあります。ハザードマップを見ても結構な範囲になります。そこは絶対に考えておかないといけないですね。滋賀県のハザードマップは他の県と比べてもとても素晴らしいものだと聞いています。

○委員

「日野町で」と考えるのか、公民館ワークをされたときみたいに「地域で」ととらえるのか。それが整理できてないです。やはり日野町1つとしてとらえるべきなのか、地域の方がという言葉もあったりするから、地域で運営するというのがあったりしていて、まだまだ日野町は公民館単位の地域の特色が強かったり、それぞれのパワーがあったりしていて、日野町が本当にこれから先それでいいのかというの、これを話している中で思ったところでもあります。

日野町は日野町でしょ、けど、まだまだ日野町は日野町になり切れてないところがあるなど。それぞれのところでそれぞれの思いがあって、自分たちの我が強くて。それを地域の人に今後、保育園をお願いしていくにあたって、それは地域で考えないといけないのか。日野町全体としてとらえて、例えば桜谷の人が南比のところで民営化して運営されても、それも地域。その場所の人がそこでやらなければならないとか、ここで手を挙げなければならないというのではなくて、日野町として1つと考えて手を挙げてというふうなものも1つなのかなとなったときに、もっと早く言えばよかったなと思ったのが、公民館単位でやっているから、自分たちのところしか見られてないことも多くて、先ほどおっしゃっていたシンポジウム、全員が集まってきて、それぞれの意見が出始める。そうなったときに日野町全体でというふうにとらえられることになるのかなと思うと、それを答申前にすべきかなと思ってしまうところもあったりします。

この間の公民館ワークを聞いていると、一気に話が飛びすぎてとか、もうこんなところまで詰められているのかとかということが西大路では多くて、やはりその流れについて来られてない地域の方々、町民の皆さんがいる。回を重ねて何回も話をしているからこそ、ギリギリ私でもついていけているのか、ついていけないのか、わからないくらいなんですけど、なんとなくわかっている実情が、町民の皆さんにはまだまだ伝わり切れてないとか、そういったことを考えると、答申を出してから、もう決まったことをいまさら言われてもということになるので、ある程度町民の皆さんの意向というか思い、それまでに

するのも1つかなと思うのですが、時間もないなということも思っています。

あと、6ページに「公民館活動をはじめ、子どもに関わる育成団体が……」とあるのですが、なかなか現状、公民館の活動として子どもたちを、以前のような公民館活動は今となっては難しい現状もあったり、参加する側はいいけれども、運営して人のためにということが難しい方が増えてきているのかなというのが素直なところなんです。そうなってくると、公民館に負担もかかるし、公民館がそこまで、幼児教育というか、そういう専門の人もおられない中で、公民館の方に運営をとということになるとなかなか難しさが出てくると思います。

ですから、公民館の中に新たなそういう機関を1つ設ける。子育て支援センターみたいな形でどこかの公民館にそういうところを設けて、そこが中心となっていていろいろなやり取りもしていくというのであれば、そこに1室、子どもたちが遊びに行ける場所とか、まだまだ外で遊べない小さい子どもが遊べる場所とか、公民館を中心とした場所から、先ほど副委員長からもあったみたいに、いろいろな仕事の分担、そういったところが中心となっていて、保育士さんとの仕事のやり取りであったりとか、保育士さんが抱え込んでいる仕事をこちらが担当するとか、もう少しそういったところで保育士さんが本当に子どもと向き合える時間を確保していくというところが必要になってくるのかなということと、保育士さん、または親を助けられる機関が1つ設けられるといいかなと思います。それが保育所に近い方がいいのか、地域にとって都合のいい場所がいいのか。そこはまだまだわからないですけども、あまり離れすぎていても使い勝手が悪いですし、徒歩圏内であったりとか、近場がいいのかなということは感じて、そうすると公民館等を利用していく方が地域の中心にある場所ですので、保育園、幼稚園から近い場所というところでそれがいいのかなと感じていました。

最初の7ページにもあったのですが、今の子どもに必要な力ということで、自分の意見が言えたり、新しいことに挑戦する力、アイデアということもあるので、今でも、今の大人を見ていると、やはり思いやり、助け合いということも大切になってくる。自分中心の世の中ではだめだし、保護者も自分が中心となって先生にあれこれ言っても、やはり先生の仕事を増やしてしまう。そうではなくて、もう少し先生のこともしっかりと、それは〇〇委員が書いてくださった3ページのところに、日野町は今でも田舎なんです。田舎だからこそ助け合い、思いやりがないとやっていけない。ここに「消防団」と名指しで書かれているのが非常に私としてはうれしいです。

確かに大変なんです。けれども、この1週間の中で2回も火事がありました。日野消防署は能登の方に行っておられます。タンク車もありません。その中で消防団が活躍しなければ、消防署に水を送れないという現状もあります。そうしないと火が消せないのです。だから、消防団の人は、消防署を助けるために、地域を助けるために一生懸命頑張るのです。けれども、これは家庭を犠牲にしている、自分も犠牲になっているのです。でも、そうやって田舎だからこそいろいろな人を助け合いながら、思い合いながら生活してい

ないと、自分のことだけ、ではなかなかうまくいかないのではないかと考えております。

そういったところは大人も変わってほしい。そこから子どもたちに波及していったら、良い日野町になってほしいと思いますし、〇〇委員が考えてくださったイラストで見せてもらっていると、本当にこういったことが現実になっていくと、楽しい日野町になっていくなと思います。

○委員

提言を見させていただいていますと、皆さんからご意見があったように、お金の話と保育士が不足しているという点で、子ども園をつくってこういう形でいきたいと思いますという感じで提言をいただいています。私はそこにプラスアルファ、子ども支援課長がつくった図の「子ども」を真ん中に置いたという視点を1つ入れて、子どもの育ちという観点も入れて提言にしてもらった方がいいのかなと思います。

小規模園においては、保育園・幼稚園の先生の手が行き届きすぎて、そのことがマイナスに影響する部分もあって、私は今、学校教育課にいます。小学校を見ても小規模の小学校ですと、先生の手が行き届いて、行き届きすぎて、自主性なりいろいろな部分で、今度、大規模な中学校に行ったときに、大きな小学校にいた子どもと一緒にいるときに、小規模の子はそこに入りきれずに遠慮してしまって、なかなか集団活動が厳しい現状に突き当たると。そういう現状がある中で、今、現に幼保の中においても、数人で運営されているところが本当に子どもの育ちにとっていいのだろうか。メリットもあればデメリットも当然あるのですけれども、大規模に集約していくという考え方の中でやはり集団、「懇話会の設置目的」に書いていますように、「より良い幼児教育環境の提供」や「適正な集団規模に応じた保育の提供」という部分がある中で、子どもたちの育ちという点と、適正規模という部分を入れていただけたらなと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございます。この懇話会自身が教育の専門家で行っている会議ではないので、何名かいらっしゃいますけれども、構成としてはそちらではないのでというのと、ワークショップを保護者も公民館もやりましたし、世代でもやらせていただいたのですけれども、選択肢がないのはつらいという意見もあって、そこは私は今非常に苦慮してこういう書き方を選んでいるというところでもあります。ただ、ご意見としては非常によくわかりますし、適正規模の議論はずっと出てきているので、私も非常に悩んでいるところではありますが、今そこは悩んでおります。引き続き最後まで悩みながら書いていきたいと思っております。

それでは、ひととおりのご意見を伺ったのですけれども、先ほど言いかけた話、スケジュール的なことを考えると、答申を出すまでにシンポジウムを企画するのはなかなかつらいのですけれども、ただ、今まで世代別にはやってきました。ハンディのある方向けということで、別に地域性を限定しない形でのワークをやっていないわけではないし、今週末も地域性を限定しない形のコーナーを設けたりもしているので、そういう意味では全く

やってないというわけではないと思っています。

そのうえで3月に、少なくとも、そこに来る人は初めて来られる方かも知れませんが、我々が会って話を聞いた方々も間違いなく町民さんなので、その町民さんからどんな話があって、保育士の方たちがどういう話をしていてということを皆さんと共有するのは価値があると思っています、皆さんがどういうことを思っているかということも共有することはかなり価値があると思います。

私も正直、この懇話会をやってかなり後半になるまで少子化対策というのがあまり具体的に見えてなかったです。何となく少子化対策は大事だということぐらいは思っていましたけれども、先進事例と言われるところはもっと具体的にやっているんだということを通じて感じましたし、そういうことをちゃんと皆さんと共有すること。あと、保育士不足というのも数字としてちゃんとお見せできるようになったのは後になってからなので、そういったこともちゃんと共有したいなという思いがあるのですが、もしご異論がなければ、3月下旬あたりにそういったことを皆さんにもご協力いただいてやりたいのですけれども、いかがでしょうか。

それから、〇〇委員さんが描いたストーリーについてコメントをいただいてない方もいらっしゃるのでは、ぜひ聞きたいと思います。いかがでしょうか。描いている方は、これでいいんだろうかとかなり悩んでいると思うので。

○委員

せっかく描いてくださっているので、イラストの字を読めるようにならないでしょうか、読みたいなと思って。

○委員長

わかりました。大筋としてはどうでしょうか。

○委員

消防団のことに突っ込んでいただいて、こういうのはどうなんだろうと思いつつも、これが大変だという声も私の知人からよく聞いています。

○委員

ここに書いてあるのが絶対というのではなくて、ここに書かれていることで読んだ人をちょっと刺激する、考えるきっかけになったらという意味も込めて書いています。

○委員

1つの例だと思うのですが、いくつ書いても、あてはまる人もいれば、あてはまらない人もいると思うので、すごくわかりやすいなと思っています。

○委員

私は3番目の出産のときに、夫が3週間の育休をとり、産後1ヶ月は家事訪問サポートを受けました。そのとき日野町で「家事サポート券を週に1回、産後1ヶ月は配布してほしい！」と心底思ったので、これはすごく理想的ですね。日野町は民生委員さんが1回来ると、保健センターから保健師さんか助産師さんが家に来てくれるものが1回ありま

すが、それ以外、訪問系はありません。

過去3回、妊娠出産を日野町で経験していますが、夫の育休は2回目と3回目のときの2回取得してもらいました。1人目はなんとか大丈夫なのですが、2人目や3人目は核家族だとやっていくのは難しいです。家事訪問サポートは本当に必要です。

○委員

地域の行事なども大変多くて、消防団も大変だし、田舎ならではの大変さというのはよく聞きますし、間違いありません。間違いなく面倒くささもあるし大変さもあります。

でも、そこで横のつながりができて、人とのコミュニケーションになって、コミュニティが広がって行って、それがいざというときに人と人との助け合いになってという良さもあるのです。それが日野町だと思っていて、じゃないと、〇〇委員とは公民館行事で知り合っただけ、絶対出会わなかったけど、そういうところでつながって知り合いになってとか、そういうことも多いと思うのです。そう思うと、大変だからこそその魅力というもの、田舎ならではのいいところなのかなと、賛否両論ありますが、感じます。

○委員

移住者で、夫も私もちり地域の役職をやっていますが、メリットでもありますので、おっしゃっていることはよく分かります。けれど、基本的に日野町は「帰ってくる」場所なのもあり、わたしたちは移住者なので年末年始は実家には帰れなかったりします。なぜなら、12月末は夜警というものがあって、うちの夫は自警団の団長をしていることから年末年始は実家には帰れないし、宮守りもあと10年以内には回ってくるのですが、それが来てしまうと家族総出でお宮さんの掃除をする必要も出てくるらしく・・・私達も最低限は必要だと思っていますが、字の役回りについては非常に難しい問題です。

○委員長

それだったら、濃いエリアもあれば薄いエリアもある、というみたいな書きぶりもいいかも知れませんね。

○委員

そうですね。五月台、椿野台、湖南サンライズなどは、昔からある字と違って、あまり役職はないように思います。

○委員長

これも選べるのが大事かなと。どういう地区であるかということに移住者がはっきりわかって、実際に新潟の出雲崎町で聞いた時にもそういう話はあったのです。いかに地域とつながるかというところでコーディネーターさんが入られているという話を聞いたので、そうするといろいろな地域があるのですね。町内会費の話になったときにすごく盛り上がったこともあったのですが、すごく格差があるそうで、それぞれどういうところでどういうプラスとマイナスがあるのかわかって移住できるといいのかなと、今聞いていて思ったことでした。

○委員

噂でしかないのですが、必佐小学校の近くに団地ができているのだけど、内池の自治会には入らないという話もあって、新しい団地ができると、自治会には入らないでほしいという話も聞いたことがあるのですが、どうでしょうか。

○委員

どういう整備計画を持たれているかということがあるので、内池でも駅の向こう側はみんな内池西に入られていますし、近い字同士で引っ越しされるということが意外と日野町では多いので、それはなぜかということ、都市計画法のことで、そこに建てたいけれど建てられない。それで建てられそうなところがあったときにすぐに入ると、前から決めていたと。まちが賃貸、少子化を何とかしないと、結局、働き手不足の20年後になると絶望的なので、子どもさんが多いというのは、大変ですけど、宝が多いと夢があるというか、変えていった方がいい時代になってきたと思うのです。

お祭りもそうだし、町内会費とか、それぞれの地区ごとに、なかなか町が統括してこういうふうにしようということをしてしまうと地域性がなくなってくるので、それもいいのですが、子どもを中心とした組織とかコミュニティは、なくしていくと、大人同士が好き勝手言うので、子どもさんが真ん中にいるから、PTAしかり、子ども会しかり、地域のお祭りも子どもさんがいるからお祭りはあるので、そういうものをなくしていくとなってしまうと全部なくなっていくので、当然大変ですけど、その大変な要素は何なのか。消防団の中身とかポンプ操法のこととか、でも、じゃあ、それ以外のそういうものを全部はぎ取っていったときに、コミュニティをどうやってつくっていくのか誰か教えてくださいよと聞いたときに、誰も言えないですね。歴史的に何百年も続いているので、それができていたらやっていると思うのですが、そこをもう、昔の人口と昔の年齢層のときのやり方で、30人でやっていた祭りを10人の人が、70代・80代の人と一緒にできるかと言われたら、できない。お祭りも民俗も全部、時代とともに変わっていつているので、ただ、子どもを取り巻く環境やコミュニティは、変えようとされる方もいるのですが、変えてしまうと批判がくるので、親は変えたいのですが、逆に他のところでそういったことを補填できるようなイベントや事業は、何もきっかけがない限り横の人としゃべりに行こうというのはこんなに小さなまちでもあまりないと思うので、そういったことを新しい幼児教育の中に、「日野町のまちづくりは新しい日野町の幼児教育から始まる」みたいなコンセプトを立ててやっていくとか、そこしかないかなと、日野町は。申し訳ないのですが、お祭りと社会教育とか家庭教育しか恐らく日野町が生き残っていく道はもうない。一番大事な幼児教育保育の在り方なので、〇〇委員がつくってくれたこういうストーリーをもとにして、こういうふうに暮らせるまちなんだと、マーケティングといたらおかしいですけど、それを1つとしていくつかのプランを描いていただいていると、読んでくれる人もいるし、それがこの中に本当に入っていたりすると、また違った考えのまちなんだと思われる親御さんもおられると思うので、意外と教育の在り方などを見ている親

御さんも多いから、そういったところで、まずはいろいろな自治会とか地区単位での行事があるのですが、子どもさんが関わっておられる、それに親とか全世代と一緒にするというのは、幼稚園や保育園とか、小学校や中学校ではないのかなと思うので、「日野町は幼児教育からまちを変えていく」というふうなコンセプトでシンポジウムをすとか、そうでないと、幼児教育だけだったら関わっておられない方は、親世代とは絶対違うので。わからないと思うのでね、どれだけ強く言っても、そういう時代ではなかったの。そういうふうなシンポジウム、みんなで一緒に何かつくるということは大事なと思いますね。保育士の先生方も、お忙しい中でも関わってもらえると、みんなでやる方がいいのではないかと思います。

○委員長

シンポジウムを何らかの形でやるということでもよろしいですか。ありがとうございます。お約束の時間にだんだん近づきつつあるのですが、よろしいですか。

では、ありがとうございました。私がどう書こうか迷っているところにしっかりとご指摘いただきまして、私もどこに重点を置いて書いたらいいかわかったような気がしますし、どういう形でシンポジウムを開くのかということも、今いただいたお話をベースに考えていきたいと思えますし、何より、何か変わったと見せるため、パンフレットづくりとか、その仕掛けを最後にやりたいと思えますので、このあと事務局と協議して、何か変わったと見せるものを最後に用意したいと思っています。

ほか、皆さんからいかがでしょうか。それでは、事務局にお返ししたいと思います。

○子ども支援課長

ありがとうございました。あともう1回、最後、2月5日は最終の修正をさせていただいて、つくったものをご議論いただく場にしたいと思います。しっかりと先生と相談させていただいて、きちんとしたものを作成していきたいと思えます。

もう1つ、第10回は2月21日、これは町長に最終答申というか、報告をするという、報告書を渡すということをしていただこうと思っています。平日のことですし、委員の皆さんに来ていただける方には来ていただくというくらいの形で、渡す式と先生の方から説明、町長などに伝えていただくという会にしたいと思っておりますので、またお時間が許す方はご来場よろしくをお願いします。

先ほどのシンポジウムの件ですが、3月下旬ということで、日がある程度絞られてくるのですが、24日の日曜日あたりとか、もし可能であれば会場押さえとか進めたいと思うのですが、年度末のお忙しいところではあるのですが、日野公民館などを会場にできればなと思っています。

ご意見がないようでしたらそれで進めていきたいと思えます。どうぞよろしく願います。以上です。本日はありがとうございました。

~~~~~

(閉会)